



大学における日本語教育の意義と可能性

日本語教育センター員、教育講師
高村 めぐみ 氏

○高村 皆様、本日はお忙しいところ、立教大学日本語教育センターシンポジウム 2012 にご参加いただきまして、まことにありがとうございます。

本日の司会進行役を務めさせていただきます、日本語教育センター員の高村めぐみと申します。どうぞよろしくお願いたします。

初めにセンター長から開会のご挨拶をいたします。

開会の挨拶

○丸山 皆様、本日は平日の夜にもかかわらず、大勢の方にお集まり、ご参加いただきまして、まことにありがとうございます。

立教大学の日本語教育センターは昨年 4 月に設立され、この 12 月でちょうど 1 年と 8 カ月を迎えたところでございます。

大学の日本語教育機関の設置を考えてみますと、1980 年代の後半、つまり留学生 10 万人計画が打ち上げられたころから積極的に展開されてきているのですが、立教大学の場合は、こういった国の施策とは別に、留学生とともに学ぶ重要性への認識が高まり、そういう中で、内発的な形で設立したというところが特徴だと思いますし、立教のよさではないかと私は思っております。

今回のシンポジウムは、日本語教育センターの設立 1 周年を記念するとともに、本学における日本語教育のこれからの方向性を考える機会にしたいと考えております。そこでテーマを「大学における日本語教育の意義と可能性」といたしました。

本日ご登壇いただく先生方を簡単にご紹介させていただきます。

まず、第1部の基調講演は西原鈴子先生にお願いいたします。西原鈴子先生は、アメリカ、インドネシア、オーストラリアで、日本語教育の実践を重ねられた後、国立国語研究所、そして東京女子大学にご勤務され、日本語教育学会の会長も歴任なさっています。現在は国際交流基金日本語国際センターの所長をなさる一方で、文化審議会のもとで、生活者としての外国人に対する日本語教育プロジェクトにも関わられており、常に日本語教育の牽引役を担っていらっしゃいます。その西原先生には、「大学の国際化と日本語教育」というテーマで、大学はなぜ国際化していくことが必要なのか、その中で、日本語教育はいかなる役割を果たしていくのかということについてご講演いただきます。

第2部のパネルディスカッションは、「立教大学の国際化と日本語教育」というテーマを設定いたしました。第1部の基調講演を受け、具体的に、立教大学の日本語教育について考えたいと思います。4名のパネリストをご紹介いたします。

まず、本学の国際戦略の中心にいらっしゃる山口和範先生と松田宏一郎先生、そして日本語教育センター前センター長の池田伸子先生、そして学外から、筑波大学名誉教授の石田敏子先生です。



開会の挨拶

日本語教育センター長、異文化コミュニケーション学部教授

丸山 千歌 氏

学外からお越しいただいた石田敏子先生を簡単にご紹介させていただきます。石田先生は、アメリカ、フランス、イギリスなどで、日本語教育実践を重ねられた後、国際基督教大学、筑波大学、日本女子大学、そして早稲田大学にご勤務され、日本語教員養成にもご尽力されました。また現在は、ディスレクシアの日本語教育についてのご研究を精力的に展開なさっています。

以上の4先生にご発題いただき、本学の国際化の中で、日本語教育はどのように展開していくべきかを、参加者の皆様とともに考えてまいりたいと思います。

本日は2時間という時間の制限はございますが、立教大学の日本語教育の方向性と課題が見えるような会にしてみたいと思います。どうぞ活発なご議論をよろしくお願いいたします。

○**高村** それでは早速、第1部の講演を始めさせていただきます。講師は国際交流基金日本語国際センター所長、西原鈴子先生です。西原先生、どうぞよろしくお願いいたします。